

第23回全国障害者スポーツ大会SAGA2024 トレーナー体験記

NTT東日本札幌病院 檜館 強拓



2024年10月24日から29日まで、佐賀県佐賀市で「第23回全国障害者スポーツ大会 SAGA2024」が開催されました。各都道府県および政令都市から選手団が参加し、私は札幌選手団のトレーナーとして帯同する機会をいただきました。なお、北海道選手団には塚田先生と佐藤先生が、札幌選手団には私と安倍先生がそれぞれサポートにあたりました。札幌選手団としてトレーナーが帯同するのは初めての試みであり、出発当初はアウェーのような感覚もありましたが、役員や市職員、コーチ、そして選手の皆さんが温かく迎えてくださり、次第に信頼関係が深まっていきました。初日から多岐にわたるケ

ースに対応させていただきました。札幌選手団の約90名の選手の中で、特に陸上競技と水泳競技に関わり、知的障害の選手が大多数を占める中で、脳性麻痺や片麻痺を持つパラアスリートとも関わることができました。サポートした選手の症状は、大腿四頭筋やハムストリングの肉ばなれ、鼠径部症候群、上腕二頭筋腱炎など、多岐にわたりました。大会前日の公開練習では、コーチと連携しながら選手の動作を映像で確認しディスカッションする機会もあり、ケ



だけでなくコンディショニングにも関わることができました。その結果、選手の皆さんの多くがメダルを獲得するという成果に貢献でき、また、選手とコーチ、そして役員の皆さんとの橋渡し役としても役立てたと感じています。今回の大会では、知的障害や身体障害を持つ選手に寄り添い、トレーナー業務としてバラ特有のアダプテッドな視点でアスレティック・リハビリテーションの基礎に立ち返りアプローチすることができました。競技までのプロセスを共有したことで、選手やスタッフが揃って涙する感動的な瞬間もあり、心に残る体験となりました。

全国障害者スポーツ大会 知的バスケ女子札幌選手団 トレーナー活動

羊ヶ丘病院 富田 悠平



10月26日、27日佐賀県唐津市にてSAGA2024全国障害者スポーツ大会の知的バスケットボール競技が行われました。札幌市代表とし選手8名(20~37歳)が参加し、大会前日のストレッチや大会中の急性外傷と慢性障害の対応を行い、宿泊地ではコンディショニングや怪我の対処の提案をしました。痛みの訴えが曖昧で適切な対応が難しい事もあり、時間をかけて丁寧



聞き出していくことを心掛けました。大会参加チームの中で医学的スタッフで帯同していたのは札幌市のみでした。知的障害のスポーツ分野は全国的にみてもコメディカル支援が少ない現状の様です。知的障害のある方は予測や判断が遅れる事で危険な接触が多く、捻挫や擦過傷が多い印象です。日頃の仕事で身体的負荷が大きい場合もあり、スポーツによる影響だけでなく生活の影響からも考えて普段の練習でもサポートすることを大切にしています。今回の大会で選手達の中には大きく精神的な成長をしている方がいました。選手達がより良い状態でスポーツの機会を得て、1日も早い精神的な成長を得られるよう今後も支援していきたいです。